

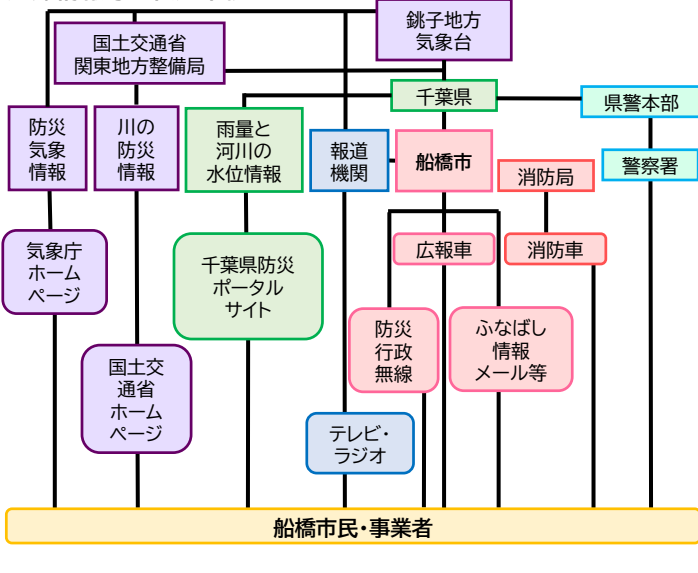
風水害に備えるために

台風や大雨等の風水害での被害を小さくするためには、正しく情報を得て、事前に対策しておくことが重要です。ハザードマップで自宅や職場等の災害リスクを確認しておき、いざという時に適切な避難行動をとれるようにしましょう。

避難情報等の伝達系統と船橋市からの防災情報の主な入手方法

災害の発生が予想される場合に、市民の皆さんに避難に関する情報をお知らせします。テレビ・ラジオをつけて最新の気象情報、災害情報に注意し、いつでも避難できるように準備をしてください。

避難情報等の伝達系統



船橋市からの防災情報の主な入手方法

防災行政無線の放送

聞き取れなかったときは、**0120-2784-61** にかけることで再度聞き直すことができます。

ふなばし情報メール「ふなばし災害情報」

市公式LINEアカウント
災害情報をメール・LINEで配信するサービスです。



市ホームページ

市公式アプリ「ふなっぶ」(Funapp)
様々な防災コンテンツをご覧ください。
市ホームページは、検索サイトで「船橋市」と検索してください。



ios
android
ふなっぶ(Funapp)

市公式X(旧Twitter) @Funabashi_city
市公式Facebook 船橋市危機管理課



X(旧Twitter) Facebook

デジタルテレビのデータ放送(dボタン)

デジタルテレビをご覧の方は、リモコンの「d」ボタンから、避難情報や開設している避難所などを確認できます。

警戒レベルを用いた避難情報の発令とマイタイムライン(わが家の避難行動計画)

市が発令する避難情報は、緊急性を5段階にレベル付けて公表します。ご自身やご家族の状況に応じて各段階で身を守るために必要な行動をとり、警戒レベル4までに必ず避難するようにしてください。また、風水害に備えてご自身やご家族の行動をあらかじめ考え、マイタイムライン(わが家の避難行動計画)を作成しておきましょう。災害時でも落ち着いて行動することができるようになります。マイタイムラインの作成方法を市ホームページで紹介しています。



警戒レベル	自ら行動をとる際の判断に参考となる情報(気象庁等が発表)	とるべき行動	行動を促す情報※1(市が発令)	
警戒レベル1	・早期注意情報	災害の心構えを高める	-	警戒レベル1～日頃の準備～
警戒レベル2	・氾濫注意情報 ・大雨・洪水注意報 等	自らの避難行動を確認する	-	警戒レベル2～早め早めの情報収集～
警戒レベル3 高齢者等は避難	・氾濫警戒情報 ・大雨・洪水警報 等	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難※2	警戒レベル3～避難の判断時期～ 高齢者等避難
警戒レベル4 全員避難	・氾濫危険情報 ・土砂災害警戒情報 等	危険な場所から全員避難	避難指示	警戒レベル4～危険な場所から全員避難～ 避難指示
警戒レベル5	・氾濫発生情報 ・大雨特別警報 等	命の危険直ちに安全保!	緊急安全確保	警戒レベル5～命を最優先に～ 緊急安全確保

※1 警戒レベル相当情報(防災気象情報)が気象庁等から発表されても、市は様々な情報をもとに避難情報を発令するため、必ずしも警戒レベル相当情報と同じレベルの避難情報が同時に発令されるものではありません。

※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

水害に備えた事前の心構えと避難の心得

事前の心構え

- ・家の周りを点検・整備しましょう
家のまわりの排水溝が詰まっていないか確認し、掃除しておきましょう。また、家の周囲に風で吹き飛ばされそうな物があるか、雨戸や雨どいが傷んでいないか確認しておきましょう。
- ・避難所や避難経路を確認しておきましょう
身近な避難所の位置を確認し、危険な箇所を避け、安全に避難するためには、どう行けばいいのかを家族で確認しておきましょう。マイタイムラインを作成することも有効です。
- ・隣近所へ呼びかけましょう
避難する際には隣近所に声をかけあい、地域で逃げ遅れる人がいないようにしましょう。
- ・非常持出品を用意しておきましょう
避難に必要なものを事前に準備し、迅速に避難できるようにしましょう。

避難の心得

- ・テレビ、ラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意し、危険を感じたり、移動に時間がかかる場合は、早めの避難をすることが重要です。
- ・避難をする時は、動きやすい服装で、2人以上での避難を心がけましょう。
- ・避難の際は、できるだけ高い場所の道路を選び、浸水箇所があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、崖地等では土砂災害に注意しましょう。
- ・車での避難は避けましょう。緊急車両の通行の妨げになるだけでなく、交通渋滞をまねくことや、アンダーパス等で浸水すると車内に閉じ込められることがあります。
- ・想定される浸水深が浅い場合には、自宅や近くの堅牢な建物の2階以上に避難することも有効です。
- ・既に浸水が生じており、避難所への移動が困難な場合には、近くの頑丈な建物の2階以上に避難するか、家の中でより安全な場所(崖から離れた部屋や2階以上)に避難しましょう。